

校長室だより

☆教育目標☆

自ら考え判断し、進んで行動できる富中生
〈生活心得〉 時を守り 場を清め 礼を正す
令和元年11月26日発行 No.15
富岡市立富岡中学校 校長 中村 喜雄

☆☆「大切にする」とは・・・☆☆

「人みなに美しき種子あり」、普段から大切にしている私の好きな言葉のひとつです。自分もっている美しい種子、誰もがそれを大切に育て花咲かせることを願ってやみません。持ち味であり個性であるそれを、この世の中の誰もが生かしていけると信じます。

ところで、これからの教育を語るとき、教師だけでなく多くの人々が、個性を生かすとか、一人一人を大切にするという表現をよく使います。文字通り、今ここにいる子どもは、世界でたった一人しかいない、他の人には代われないかけがえのない存在であり、一人一人を大切に指導・支援していこうということです。そこで、「大切にする」ということはどういうことなのかを考えてみる必要はありそうです。

例えば卵ですが、ぶつかり合って割れることがないように、たいていの場合、プラスチックのケースに一つ一つ並べて売られています。高価な桃やメロンなども柔らかな紙やネットに包まれて並べられています。「大切に」とは、これらと同じように子どもたちを保護することでしょうか。一人一人が他人とふれ合ったり、かかわり合ったりして傷つくことを極力避けるということでしょうか。もちろん否です。子どもたちを波風の立たない平穏な環境の中に置くことではありません。

個性とは、その人なりの良さ、その人らしさであるといえます。そして、それらは、自分とは違う他人がいることによって、その存在がよりはっきりしてきます。他人とのかかわりの中で生き生きとしてきます。自分とは違ったものの見方、考え方、生き方をしている多くの他の人とかかわり合うことこそ、個性を、一人一人を大切にすることになるのではないのでしょうか。

ですから、子どもたちは、学校生活だけでなく、家庭や地域社会における生活でも、同年齢の友だちに限らず、家族や地域の大人や幼い子ども、お年寄り、いろいろな職業の人たちなどと幅広く多様なかかわり合いをもつ機会や場面をたくさんつくることが重要です。かかわる体験を重ねていくことによって、自分自身の良さに気づき、自信をもって個性を発揮していけるでしょう。個性を生かすとは、あくまで当人が自分を生かすこと。親や教師にできることは、子どもたちに様々な「意味のある出会い・出合い」の機会をつくっていくことなのだと思います。間違っても、子ども自身が選んだ出会い・出合いを頭から否定するようなことがあってはなりません。学校も家庭も、一人一人の個性が生きるとような雰囲気（環境）をつくること。このことこそ、「大切にする」ということではないのでしょうか。



